科目名	デッサンＩＣ	必修選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	山﨑隆
学科・コース	クリエイティブデザイン科	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	1981武蔵野美術大学大学院造形研究科修了　1982～2003 同大学共通彫塑研究室助手・講師						
授業の学習内容	①観察力を高める ②全ての教科の基礎となる ③自己の眼、五感を通し想像する力を高める ④描くことへの先入観や苦手意識を取り省きながら、簡単な形態から徐々に難しいものの描写へと進める						
到達目標	①遠近法をしっかりと理解する ②立体的にモチーフを観察できる ③存在感のあるしっかりとした描写が出来る						
評価方法と基準	①各授業ごとの理解度 ②前期2回程度のコンクール形式の作品の点数						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月20日	実習	本的道具の使用方法　粘土を用立方体を制作後描	無し
2	4月27日	実習	粘土による立体デッサン（靴）	無し
3	5月11日	実習	粘土による立体デッサン・２	無し
4	5月18日	実習	黒長靴の描写	無し
5	5月25日	実習	遠近法（四角形）	無し
6	6月1日	実習	遠近法（円柱型）	無し
7	6月15日	実習	量感のあるモチーフ・１	無し
8	6月22日	実習	量感のあるモチーフ・２	無し
9	6月29日	実習	コンクール	無し
10	7月6日	実習	クロッキー（友人）	無し
11	7月13日	実習	友人像	無し
12	7月20日	実習	自画像	無し
13	8月31日	実習	自由課題	無し
14	9月7日	実習	コンクール	無し
15				
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

鉛筆（21本組）、カッター、練り消しゴム

科目名	デッサンＩＣ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	エルド吉水
学科・コース	クリエーティブデザイン科昼二1年B	授業形態	実技	総時間（単位）	60（ 2 ）		
教員の略歴	東京藝大卒。国内外にアートオブジェをデザイン。その後、漫画家に転身。						
授業の学習内容	講師自身が漫画を描いてるので美大受験的なデッサンを漫画家やイラストレーター向けにアレンジしています。人体クロッキーでは頭身やプロポーションのバランスや重心、筋肉と骨格などを石膏デッサンでは光の方向と面、量感、形を正確にとることを静物デッサンでは質感の違いの描き分け、複数のモノが同じ台に載っている設定描写などを体験しながら学びます。						
到達目標	イメージした人体ポーズや光の演出などを描ける基本画力。						
評価方法と基準	画風の個性を尊重します。 ですので一人一人の努力と完成度で採点します。 点数よりも良い絵を描くことを考えてください。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	4/22	講義と演習	1.何も見ないで「手」を描いてみよう。 2.「手」の構造解説。「手」のスケッチ（スマホで撮影して描く）	道具の準備。
2	5/13	演習	1.前回の手のスケッチの講評　2.人体の解説 3.人体のプロポーション描き方解説 4.友人クロッキー	前回の復習。
3	5/20	演習	男性モデル(海パン)クロッキー	前回の復習。
4	5/27	演習	1.何も見ないで立方体を描く。2.パース解説（遠近法の解説） 3.木の角材を描く 4. ブロックを描く 5.講評	前回の復習。
5	6/3	演習	1.鉛筆デッサンの解説 2静物デッサン（玉ねぎとニンニクとアボガド）	前回の復習。
6	6/17	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
7	6/24	演習	女性モデル(水着orレオタード)クロッキー	前回の復習。
8	7/1	演習	1.石膏デッサンの描き方解説。 2.石膏デッサン	前回の復習。
9	7/8	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
10	7/15	演習	動物スケッチ（西葛西の行船公園）	前回の復習。
11	7/22	演習	石膏デッサン	前回の復習。
12	9/2	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
13	9/9	演習	石膏デッサン	前回の復習。
14	9/16	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
15				

準備学習　時間外学習	学校内で友人クロッキー、自分の手のスケッチ、風景のスケッチなど。

【使用教科書・教材・参考書】　鉛筆、練り消しゴム（消しゴムではない）、カッターナイフ（鉛筆を削るのに使用）クロッキー帳、ノート(講評時に必ず持参)。紙は学校で用意します。

科目名	デッサンⅡC	必修選択	選択	年次	2	担当教員	エルド吉水
学科・コース	クリエーティブデザイン科昼二2年B	授業形態	実技	総時間（単位）	60（2）		
教員の略歴	東京藝大卒。国内外にアートオブジェをデザイン。その後、漫画家に転身。						
授業の学習内容	１年次でつけた基礎力をより向上させる。 講評も高度になります。						
到達目標	目標は、 あなたの苦手要素を克服する。 手癖でなんとなく描いていた描画を、もう一度深く観察して画力を向上させる。 イメージした人体ポーズや光の演出などを描ける基本画力。						
評価方法と基準	画風の個性を尊重します。 ですので一人一人の努力と完成度で採点します。 点数よりも良い絵を描くことを考えてください。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	4/22	演習	銃を持った手のドローイング	道具の準備。
2	5/13	演習	前回のドローイングの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
3	5/20	演習	男性モデル（前半は水着、後半は着衣）クロッキー	前回の復習。
4	5/27	演習	鏡の上に置かれたポットなど。 （雨に濡れた地面などの表現に応用が効きます）	前回の復習。
5	6/3	演習	静物デッサン（玉ねぎとニンニクとアボガド）	前回の復習。
6	6/17	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
7	6/24	演習	女性モデル(前半は水着、後半は着衣)クロッキー	前回の復習。
8	7/1	演習	風景スケッチ（雨天時は写真撮影後模写）	前回の復習。
9	7/8	演習	静物デッサン（瓶と布と長ネギ）	前回の復習。
10	7/15	演習	晴天・上野動物園(学校集合で動物園3時20分解散) 雨天・石膏デッサン	前回の復習。
11	7/22	演習	石膏デッサン	前回の復習。
12	9/2	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
13	9/9	演習	石膏デッサン	前回の復習。
14	9/16	演習	前回のデッサンの講評。 友人クロッキー	前回の復習。
15				

準備学習　時間外学習	学校内で友人クロッキー、自分の手のスケッチ、風景のスケッチなど。

【使用教科書・教材・参考書】　鉛筆、練り消しゴム（消しゴムではない）、カッターナイフ（鉛筆を削るのに使用）クロッキー帳、ノート(講評時に必ず持参)。紙は学校で用意します。

授業名（時間割表記）	デッサンIIIA	必修選択	選択	年次	3	担当教員	城　哲也
学科・コース	マンガ	授業形態	実技	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	イラストレーション、キャラクターデザイン						
授業の学習内容	デッサンをする意義の理解。デッサンをすることが目的ではなく、デッサンをすることでデッサン力を身に付けるための授業。デッサン力とはクリエイティブ活動において、クオリティーを下支えする基本的な能力である。この授業では見たものを正確に表現するための構図、立体表現、空間表現、質感表現、構造や動きなどを勉強することにより、ものの見方の豊さや表現技術の向上を目指します。						
到達目標	見たものを正確に表現できる経験により、学生自身が表現したい作品において、クオリティーを高めるための客観的な視点や判断能力と表現技術の獲得。多様なテーマに対する対応能力の獲得。						
評価方法と基準	課題評価点数						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4/20	講義と実技	講義と静物デッサンと個人面接	身の回りのものをデッサン
2	4/27	実技と講義	上記の続きと個人面接と全体講評会	身の回りのものをデッサン
3	5/11	実技	静物デッサン	自分の手をデッサン
4	5/18	実技と講義	上記の続きと全体講評会	身の回りのものをデッサン
5	5/25	実技	石膏デッサン	身の回りのものをデッサン
6	6/1	実技	上記の続き	人物写真をスケッチ
7	6/15	実技と講義	上記の続きと全体講評会	身の回りのものをデッサン
8	6/22	実技	静物デッサン	身の回りのものをデッサン
9	6/29	実技と講義	上記の続きと全体講評会	自画像
10	7/6	実技	女性モデル（コスチューム）	身の回りのものをデッサン
11	7/13	講義と実技	モデル講評と静物デッサン	身の回りのものをデッサン
12	7/20	実技と講義	上記の続きと全体講評会	街中をスケッチ
13	8/31	実技	静物デッサン	身の回りのものをデッサン
14	9/7	実技と講義	上記の続きと全体講評会	身の回りのものをデッサン
15	／		評価週	
準備学習　時間外学習			前授業の復習および提示課題制作	

【使用教科書・教材・参考書】

鉛筆、カッター、プラスチック消しゴム、ねり消しゴム（鉛筆はできれば6B～6Hは欲しいが、最低でも4B～4Hは必要）